

インターバンクの声（2017年11月10日）

昨日の東京時間で驚かされたのが日経平均株価の乱高下だ。25年10カ月ぶりに2万3千円台の大台を回復したのも束の間、前場引け間際に付けた高値から後場の大引けまで30分の時点での安値まで、860円も値下がりました。大引けでは何とか45円安まで持ち直したが、とてつもなく大きく下落したように感じた。

金曜日のオプションSQ絡みの先物に振り回されたようだが、これだけ短時間で大幅な値下がりを目の当たりにすればドル円も円買い・ドル売りに反応するしかなく、昼過ぎの114円前後で小動きだった水準から一時間ほどで113円40銭台まで下落した。その後のドルの反発も小さく、欧州株も下落していたことからニューヨーク市場の早朝には113円20銭台まで続落した。その後、米金利の上昇がドルの更なる下落を防ぎ、113円69銭まで持ち直した。しかし、この後、米上院財政委員会が公表した税制改革法案が2019年までの法人税減税先送りを盛り込んだことが懸念され、再びドルが売られ、ドル円も113円10銭付近まで下落した。ただ、この後、今度は米下院で共和党が税制改革法案の複数の条項を修正した案を公表したことからドルが反発した。どうも来週は米財政改革法案の採決の行方が相場を左右する一要因になりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。